

幼稚園における歌唱曲の傾向と音楽的諸様相

津 田 俊 子

ま え が き

最近、どのような歌が幼児に好まれているのだろうか。その音楽的嗜好性は、間接的には幼児の置かれている社会と音楽文化環境と関わり、直接的には家庭や幼稚園、保育園、あるいは身近な周囲の音楽環境と関わっている。幼稚園、保育園で実施されている諸々の音楽活動は、幼児の成長過程にあって教育的意義や幼児の心理的配慮に基づいて意図的に行われる。他方、大量音楽情報社会にあっては、無意図的、無意識的に幼児の音楽感性に様々な作用を及ぼしている。意図的に教化する立場にある幼稚園、保育園自体もまた社会的存在であり、その社会の音楽文化を色濃く反映しているとも言える。この調査、及び考察は、幼稚園における歌唱曲の傾向を探り、教育現場で実際にどのような歌が取り扱われているか、その実態と幼児が置かれている音楽環境を考察しようとするものである。

1 調査方法と結果

本研究の基礎資料は、幼稚園で実施されている歌唱曲の曲名、曲種等を明記した年間教育計画書に基づいている。基礎資料収集に当っては現実的に幾多の困難を伴った。歌唱指導の計画を立てて、園全体が同一歩調で実施している幼稚園は必ずしも多くないこと、また、クラス担任の音楽的素養や嗜好によって、曲種と曲数に大きな差異があること、担任によっては、幼児の反応を見て臨機応変に曲を決定して指導する場合には記録がないことなどである。従って本研究の基礎資料は、年間を通して指導された歌の曲名を記録保存されていたものに限定されている。年間歌唱指導計画書を提供いただいたのは、京都市内、及び京都市近郊の12の公・私立幼稚園である。

表1は年間歌唱指導計画書に基づいて、幼稚園で最も多く取り扱われた歌唱曲を採用率順に示したものである。

幼稚園における歌唱曲の傾向と音楽的諸様相

表-1 広く歌われている曲 (平成元年 6 月23日～ 8 月10日調査)

採用位 順	曲 名	作詞者名	作曲者名	分 類
I 採用率 75% 2曲	チューリップ	不 詳	井 上 武 士	文部省唱歌★
	こいのぼり	不 詳	不 詳	文 部 省 唱 歌
II 67% 3曲	ぞうさん	ま ど みちお	団 伊玖磨	新 童 謡
	一年生になったら	ま ど みちお	山 本 直 純	新 童 謡 ★
	大きな古時計	保 富 康 午	ワ ー ク (小林 秀雄編曲)	ポップス系統 外 国 曲
III 58% 5曲	アイスクリームのうた	さとう よしみ	服 部 公 一	ポップス系統
	七夕さま	林 柳 波	下 総 皖 一	文部省唱歌★
	うれしいひなまつり	山 野 三 郎	河 村 光 陽	レコード童謡
	想い出のアルバム	増 子 と し	本 多 鉄 磨	唱 歌 系 統
	ともだちさんか	阪 田 寛 夫	アメリカ民謡 (小森 昭宏編曲)	外 国 曲
IV 50% 9曲	トンボのめがね	額 賀 誠 志	平 井 康三郎	新 童 謡 ★
	かたつむり	不 詳	不 詳	文 部 省 唱 歌
	先生とおともだち	吉 岡 治	越 部 信 義	ポップス系統
	お正月	東 ク メ	滝 廉太郎	幼稚園唱歌
	雪のペンキやさん	則 武 昭 彦	安 藤 孝	新 童 謡 ★
	あわてんぼうのサンタクロース	吉 岡 治	小 林 亜 星	ポップス系統
	とけいのうた	筒 井 敬 介	村 上 太 郎	新 童 謡 ★
	ちょうちょ	不 詳	スペイン民謡	外 国 曲
	お化けなんてないさ	榎 みのり	峯 陽 (越部 信義編曲)	新 童 謡 ★
V 42% 11曲	おもちゃのチャチャチャ	野 坂 昭 如 (吉岡 治補作)	越 部 信 義	ポップス系統
	やきいもグーチーパー	阪 田 寛 夫	山 本 直 純	新 童 謡 ★
	しゃぼん玉	野 口 雨 情	中 山 晋 平	大 正 童 謡
	ぶらんこ毛虫	小 川 正	小 川 正	唱 歌 系 統
	おつかいありさん	関 根 栄 一	団 伊玖磨	新 童 謡
	おかあさん	田 中 ナ ナ	中 田 喜 直	新 童 謡
	そうだったらいいのにな	井 出 隆 夫	福 田 和 禾子	ポップス系統
	豆まき	不 詳	不 詳	えほん唱歌
	森の熊さん	馬 場 祥 弘	馬 場 祥 弘	唱 歌 系 統
	まつぼっくり	広 田 孝 夫	小 林 つや江	新 童 謡 ★
	どんぐりころころ	青 木 存 義	梁 田 貞 (早川 史郎編曲)	大 正 童 謡

教育学部論集

V 42%	あくしゅでこんにちは	ま ど みちお	渡 辺 茂	新 童 謡 ★
	手をたたきましょう	小 林 純 一	不 詳 (中田 喜直編曲)	外 国 曲
	うちゅうせんのうた	ともろぎゆきお	峯 陽 (小林 美実編曲)	唱 歌 系 統
	赤い鼻のトナカイ	新 田 宣 夫	Johnny Marks	ポ ッ プ ス 系 統 外 国 曲
	空にらくがきかきたいな	山 上 路 夫	いずみ た く	唱 歌 系 統
	走るの大好き	ま ど みちお	佐 藤 真	新 童 謡 ★
	まっかな秋	薩 摩 忠	小 林 秀 雄	唱 歌 系 統
	ホ・ホ・ホ	伊 藤 アキラ	越 部 信 義	ポ ッ プ ス 系 統
	ママとゴーゴー	丘 灯至夫	越 部 信 義	ポ ッ プ ス 系 統
21曲	バスごっこ	香 山 美 子	湯 山 昭	唱 歌 系 統
VI 33%	ちいさい秋みつけた	サトウハチロー	中 田 喜 直	新 童 謡
	くりのみぼうや	三 越 左千夫	有 島 重 武	新 童 謡 ★
	コンコンクシャンのうた	香 山 美 子	湯 山 昭	新 童 謡 ★
	あめふりくまのこ	鶴 見 正 夫	湯 山 昭	新 童 謡 ★
	せっけんさん	ま ど みちお	富 永 三 郎	新 童 謡 ★
	かえるのうた	関 根 栄 一	団 伊玖磨	新 童 謡
	証城寺の狸ばやし	野 口 雨 情	中 山 晋 平	大 正 童 謡
	でふいもちゃんちびいもちゃん	ま ど みちお	湯 山 昭	新 童 謡 ★
	大きなうた	中 島 光 一	中 島 光 一	唱 歌 系 統
	うたえバンバン	阪 田 寛 夫	山 本 直 純	唱 歌 系 統
	お星さま	都 築 益 世	団 伊玖磨	新 童 謡
	おすもうくまちゃん	佐 藤 義 美	磯 部 俣	新 童 謡
	ひげじいさん	不 詳	不 詳	唱 歌 系 統
	むすんでひらいて	不 詳	不 詳	外 国 曲
	波とかいがら	ま ど みちお	中 田 喜 直	新 童 謡
	水遊び	東 ク メ	滝 廉太郎	幼 稚 園 唱 歌
	きらきらぼし	吉 田 久 美	フ ラ ン ス 民 謡	外 国 曲
18曲	ゆき	不 詳	不 詳	文 部 省 唱 歌

採用率の最も高いのはⅠの75%、12の幼稚園中、9の幼稚園が同じ曲を採用している。以下、採用率が低下するにつれ採用曲数は増加している。12の幼稚園で1年間指導された曲の合計は400曲にも及ぶが、各幼稚園で共通して同じ曲を最も多く採用した曲数はⅤの21曲である。この21曲は採用曲数合計400曲から見れば5.25%にすぎない。いかに各幼稚園が独自の考えで幅広く自由に曲選択されているかがうかがわれる。

2 歌の分類

表1に示す計58曲は、古いものでは滝廉太郎の「お正月」「水遊び」から現代のポップス風の歌に至るまで、曲の傾向は極めて多彩で多岐にわたっている。歌の分類は、作曲年代、時代の音楽的思潮、作風等を考慮して分類を試みた。幼稚園唱歌、文部省唱歌、大正童謡、えほん唱歌、レコード童謡、新童謡運動・ろばの会系統、唱歌系統、ポップス系統、それに外国曲を加え9系統に分類している。

「幼稚園唱歌」は滝廉太郎(1879-1903)、東くめ(1877-1969)を中心に1901年に出版された歌集である。1900年には「幼年唱歌」の初版が刊行されている。これらの歌集は1880年代の言文一致運動(田村虎蔵、納所弁次郎、石原和三郎ら)の一環である言文一致唱歌の流れのなかにあった。「お正月」「水遊び」は言文一致唱歌の成熟期のものと考えられる。文部省唱歌は明治14年(1881)、音楽取調掛編の「小学唱歌集」の初編を皮切りに、1890年代にかけて検定教科書として各種刊行されている。この頃の唱歌は雅楽風の旋律をもち文語文で花鳥風月を詠んだものが多かったが、1910年に刊行した「尋常小学読本唱歌」と翌年の「尋常小学唱歌」が、いわゆる文部省唱歌と呼ばれているもので、言文一致唱歌のスタイルを踏襲している。「こいのほり」「かたつむり」「ゆき」がこれに属す。その後、検定教科書として刊行された「国民学校音楽教科書」(文部省、昭和16年)に含まれる「チューリップ」(井上武士作曲)、「七夕さま」(下総皖一作曲)は★印を付している。

大正童謡は北原白秋のいう童心童謡の歌に近づけようとした童謡運動によって作曲されたものである。大正童謡は鈴木三重吉、北原白秋を中心とする「赤い鳥」(1918年刊行)に属す作曲家、成田為三、山田耕筰、弘田龍太郎、草川信と、後に刊行された「金の船」(後に「金の星」と改称)、「童謡」「コドモノクニ」に属する中山晋平、本居長世、藤井清水、梁田貞、小松耕輔らの二派に分けられる。「赤い鳥」派はどちらかといえば唱歌スタイルに近く、「金の船」派はわらべうたの傾向がある。野口雨情作詞、中山晋平作曲の「しゃぼん玉」「証城寺の狸ばやし」、青木存義作詞、梁田貞作曲の「どんぐりころころ」はいずれも後者に属している。

「えほん唱歌」は日本教育音楽協会編集(代表乗杉嘉寿)によって昭和6年に創刊されている。「春」「夏」「秋」「冬」の四冊のうち、「秋」「夏」の二冊は昭和11年、12年に発刊された。「豆まき」は「冬」に属している。第2次世界大戦前から戦後にかけて、レコードの量産と普及に伴って新たな童謡が流行した。これをレコード童謡として分類している。作曲家は河村光

陽、海沼実、山本雅之らである。作風は大正時代の童謡運動「金の船」のスタイルを継承して、わらべうた的でありながら感傷的な雰囲気を持っている。山野三郎作詞、河村光陽作曲の「うれしいひなまつり」がここに含まれる。

戦後の子どもの歌は、曲のスタイル、傾向が多岐にわたっている。その作風や音楽的傾向を明らかにするために便宜上、新童謡運動・ろばの会系統（新童謡）、唱歌系統、ポップス系統に分類した。新童謡運動・ろばの会系統は、NHKラジオの「歌のおばさん」（1949年開始）とともに新しい子どもの歌の運動が起ったが、その運動の中心であった中田喜直、団伊玖磨、大中恩、磯部淑らが作曲した童謡とこれと同傾向の童謡をも含めて分類している。まどみちお作詞、山本直純作曲の「一年生になったら」、同じくまどみちお作詞、佐藤真作曲の「走るの大好き」、まどみちお作詞、湯山昭作曲の「でぶいもちゃんちびいもちゃん」、香山美子作詞、湯山昭作曲の「コンコンクシンのうた」、鶴見正夫作詞、湯山昭作曲の「あめふりくまのこ」などは新童謡運動と同じ傾向を示すものとして新童謡系統に分類し、これらの曲は★印を付している。

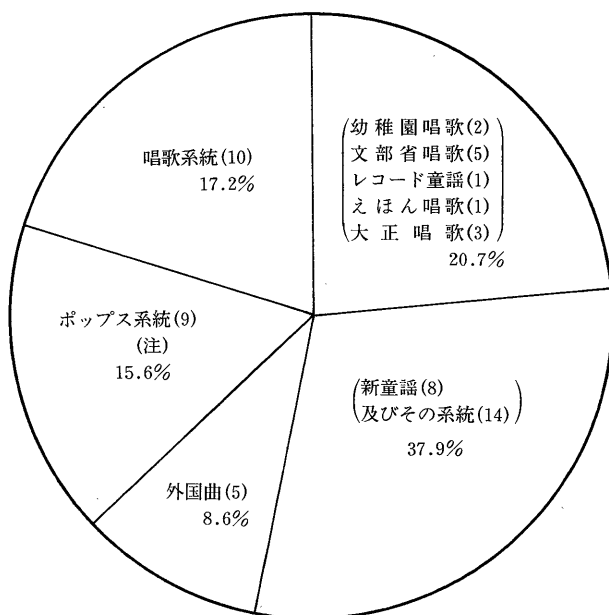
唱歌系統として分類するまえに、唱歌のスタイルはどのようなものかを明らかにしておきたい。唱歌という言葉は、明治初年に英語の singing,あるいは song の訳語として用いられた。明治5年（1872）の学制頒布では、音楽の科目を唱歌科と名づけ、教材としての歌を唱歌とか、文部省唱歌と呼んだ。文部省唱歌には文語文によるものもあるが、ここでいう唱歌は言文一致運動後の西洋化のなかで形づくられ発展してきた独特のスタイルをもつものである。特徴としては、なだらかな音の動きをもつ旋律と西洋の和声進行に裏づけられた4小節フレーズを基本とした形式を備えている。童謡に比べて曲の規模が大きく、多少、息の長い歌唱を要求される。薩摩忠作詞、小林秀雄作曲の「まっかな秋」、山上路夫作詞、いずみたく作曲の「空にらくがきかきたいな」、馬場祥弘作詞、作曲の「森の熊さん」、中島光一作詞、作曲の「大きなうた」、香山美子作詞、湯山昭作曲の「バスごっこ」などは唱歌系統に分類している。

ポップス系統として分類するまえに、ポップスの意味を明らかにしておく必要がある。ポップス、つまりポピュラー音楽は民俗音楽と芸術音楽との中間的な大衆音楽である。大衆音楽には日本の歌謡曲、フランスのシャンソン、イタリアのカンツォーネ、アルゼンチンのタンゴ、スペインのフラメンコなど各国の様々な音楽が含まれるだろう。ここで用いるポップスの用語は、1880年中ば以降のアメリカに起こった音楽産業（大衆を消費者とした音楽生産）が生み出すアメリカを中心とした大衆音楽全体を指している。ミュージカル、フォーク・ソング、ロック、ジャズなどが含まれる。これらの音楽の影響が多少とも認められる歌をポップス系統として分類している。ポップス系統としては、さとうよしみ作詞、服部公一作曲の「アイスクリームの歌」、丘灯至夫作詞、越部信義作曲の「ママとゴーゴー」、野坂昭如作詞、吉岡治補作、越部信義作曲の「おもちゃのチャチャチャ」、吉岡治作詞、越部信義作曲の「先生とおともだち」、吉岡治作詞、小林亜星作曲の「あわてんぼうのサンタクロース」、井出隆夫作詞、福田和禾子

幼稚園における歌唱曲の傾向と音楽的諸様相

作曲の「そうだったらいいのにな」・伊藤アキラ作詞，越部信義作曲の「ホ・ホ・ホ」，それに外国曲としても分類されている二曲，新田宣夫作詞，ジョニー・マークスの「赤い鼻のトナカイ」と保富康午作詞，ワーク作曲，小林秀雄編曲の「大きな古時計」と合わせて計9曲になる。外国曲では古くから日本で親しまれてきた外国古謡，「ちょうちょ」「むすんでひらいて」「きらきら星」が今なお歌われている。

幼稚園での採用率33%以上の計58曲を上記の分類によって円グラフにしたのがグラフ1である。



(注) ポップス系統は外国曲2曲を含む

グラフ1に示す分類結果を見ると新童謡運動・ろばの会と，その系統の曲が最も多く歌われている。一方，文部省唱歌に始まる，いわゆる唱歌スタイルの曲も決して少なくない。日本の子どもの歌を代表する童謡と唱歌の2つの系統が主流をなしている。そのなかで戦前の童謡，それも明治時代の幼稚園唱歌，大正童謡が今なお歌われているが，かつて広く歌われていた「かあさんおかたをたたきましよう……」の歌詞で始まる「肩たたき」(西条八十作詞，中山晋平作曲)，「おててつないで野道を行けば……」の「靴が鳴る」(清水かつら作詞，弘田龍太郎作曲)，「からすなぜなくの……」の「七つの子」(野口雨情作詞，本居長世作曲)などの大正童謡，とりわけ「金の船」派の叙情的なものが減少しているように思われる。それに対して大正童謡のなかでも「しゃぼん玉」「証城寺の狸ばやし」「どんぐりころころ」のような明るい快活な曲で歌詞内容も子どもにアピールしやすい曲は今も歌われている。特に感傷的な童謡

は忌避されているように思われる。短調の曲は「うれしいひなまつり」(山野三郎作詞, 河村光陽作曲) ただ一曲である。新童謡では「ちいさい秋みつけた」(サトウハチロー作詞, 中田喜直作曲) がホ短調で書かれてはいるが, エオリア旋法を取り入れ短調の暗さは回避されている。童謡と唱歌系統が圧倒的に多いなかでポップス系統の曲が15.6%を占めているのは注目される。

3 音楽上の特徴

幼稚園で歌われている曲分類にあたっては, 分類の基準となる作曲年代や作風から類推しなければならない。戦前の歌については, たとえば明治時代の幼稚園唱歌, 大正童謡, 文部省唱歌, 戦前に流行した童謡(レコード童謡), えほん唱歌は歴史の変遷によって分類が可能である。しかし戦後の歌については明確な分類基準がなく, 曲の音楽構造から類推しなければならない。唱歌系統, 新童謡運動・ろばの会とその系統, ポップス系統として分類した根拠は下記の音楽構造分析に基づいている。

(1) 唱歌系統

唱歌系統として分類する歌の音楽構造は, 4小節フレーズを基本としたドミナント和音による半終止とドミナント和音からトニック和音へ進行する完全終止を完備し, 厳格な形式を守っている。和声は主要三和音を中心とした機能 and 声法により, その和音を骨格とした旋律形態は経過音と補助音によって滑らかな音進行を取り流動的である。幼児よりもどちらかと言えば児童向きである。

(2) 新童謡運動・ろばの会とその系統

新童謡系統として一括している歌のスタイルは, 幼児を対象にしたものが多く, 唱歌風スタイルの曲よりも短く簡潔である。主に一部形式ではあっても, 唱歌系統とは違って半終止による前小楽節と後小楽節とのシンメトリカルな形式的厳格さはなく, そのフレーズ構成も4+4+2や4+4+4が多い。この不規則な構成は, 音楽の定形に拘束されることなく歌詞の形態を尊重したものと考えられる。歌詞の重視は, 言葉のシラブルを旋律の主要リズム形にふり当てるような旋律重視ではなく, 言葉のシラブルによって自由にリズムを変えている。例えば団伊玖磨作曲の「かえるのうた」の「あれはおとうさん……」の部分や中田喜直の「ちいさい秋みつけた」の「すましたおみみにかすかにしみた……」(譜1, 2) のように16分音符の分割リズムが旋律の要求からではなく言葉からの要求によっている。また旋律的要求によって音を長く伸ばすことや息の長いフレーズは極力避けられている。

譜1



譜 2



旋律と和声処理は、機能と声原理に従いながらも主要三和音のほかにも副三和音、借用和音を多く用いて柔軟な処理が施されている。譜 3 は副ドミナント和音を用いた例であり、譜 4 は副三和音と借用和音を用いた例である。また譜 5 に示すように倚音や逸音が旋律形態に微妙に作用し、子どもの新しい音楽的イメージを醸し出している。

譜 3



★印は副ドミナント和音を示す。

(団伊玖磨作曲「お星さま」より)

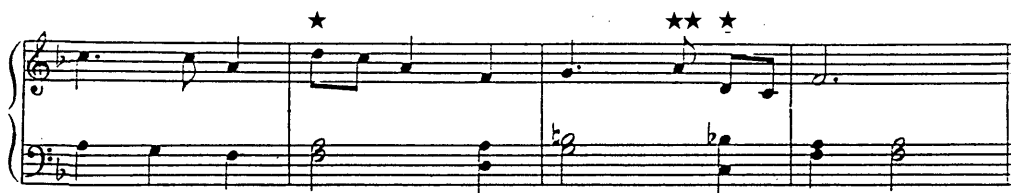
譜 4



(中田喜直作曲「波とかいがら」より)

★は副三和音, ★★は借用和音を示す。

譜 5



(団伊玖磨作曲「そうさん」より)

★は倚音, ★★は逸音を示す。

(3) ポップス系統

ポピュラー音楽の概念については先に触れたので、ここでは音楽の特徴について考察したい。ポップス系統として分類される曲は共通してアメリカを中心としたポップス音楽の影響が認められる。最も顕著な特徴はポップス音楽特有のリズムである。リズムの特徴は譜6に示す強いビートと譜7に示すアフター・ビートである。★印の音はジャズ特有のブルー・ノートである。

譜 6



(福田和子作曲「そうだったらいいのにな」より)



(越部信義作曲「先生とおともだち」より)

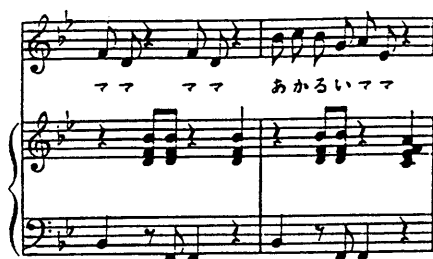
譜 7



(服部公一作曲「アイスクリームの歌」より)



(小林亜星作曲「あわてんぼうのサンタクロース」より)



(越部信義作曲「ママとゴゴ」より)

リズムだけでなく和音、旋律にもポピュラー音楽の特徴は認められる。譜 8 はポップス特有の七和音や九和音の使用例である。★は変化和音，★★は 6 度音を付加した主和音を示す。譜 9 はジャズやポピュラー音楽によく見られる拍をずらした（シンコペーション）旋律形態の例である。――で示す 8 分音符と付点 4 分音符の結合は比較的一般化されたシンコペーションであるが、16 分音符と付点 8 分音符や 4 分音符との結合によるずれはジャズ音楽によく用いられる即興風な旋律形態である。

譜 8

ママはいっぱい い る け れ ど

(越部信義作曲「ママとゴーゴー」より)

おどろ おもちゃの チャ チャ チャ

★ ★★

(越部信義作曲「おもちゃのチャチャチャ」より)

譜 9

せ か い い ら さあ! いっしょにうたおう ゴーゴー

★ ★★ ★★

(服部公一作曲「アイスクリームの歌」より)



(越部信義作曲「ママとゴゴロ」より)

ま と め

調査、及び歌われている曲分類の結果、次の2点に要約することができる。

- 幼稚園では各々独自の曲選択が行われ、広範囲な曲が採択されている。
- その傾向は多岐にわたり、明治時代の唱歌、大正童謡からポップスまで及んでいる。

曲選択の拡散的状况は、各幼稚園がそれぞれ個性的な音楽教育を指向していることをうかがわせるが、また教育の場において歌の価値観が多様化しているとも言えるだろう。大量音楽情報化社会のなかで、子どもたちはあらゆる傾向の歌を享受している現実を浮彫りにしている。教育の立場では、どの歌が望ましいかという是非を問いながらも現実的には傾向を異にする様々な歌が大量に教育の場に持ち込まれている現状である。こうした状況は様々な音楽が混在するわが国の音楽文化状況を反映しているとも考えられるのである。

最後に、調査段階で御協力をいただいた幼稚園々長先生をはじめ、諸先生方の適切な御助言と貴重な資料提供に対して感謝いたします。

〔参考文献〕

- 音楽大事典（平凡社）
- 日本童謡全集（音楽之友社）
- 日本唱歌全集（音楽之友社）